



2013年4月6日掲載

親子麺類紀行／初めての飛行機編

我が上の息子と2人で旅をしてきた。目的は、上の息子に飛行機を体験させるためである。

行き先に選んだのは、福岡と香川。14年前の「[麺類紀行](#)」(1999年2月掲載)と同様に、博多ラーメンと讃岐うどんを堪能することにした。

ただし、行程は「麺類紀行」とは異なる。飛行機で福岡へ飛びここで1泊し、香川へ移動したのち「サンライズ瀬戸」で車中泊して東京に戻る2泊3日の旅行なのだ。

1日目は朝5時起床。6時出発を目標にしていたが、準備が順調に進んだため少し早く出発することができた。

羽田空港には7時30分に到着。今回のフライトは、8時15分発のJAL305便福岡行きのボーイング777である。



余談だが、計画時には最新鋭ボーイング787の便にしてみようかとも思った。予約の段階では運行していたが、トラブル発生で運行停止の憂き目に……。

もし787を選んでいたら、幹線ゆえに欠航まではならなかったものの、機材変更になっていたであろう。面倒なことにならず、ホッとす。

朝食がまだだったので、空港内のファストフードで済ませた。そして、保安検査場を通る。

我が息子は飛行機初体験で、私自身も10年ぶり。この10年の間で飛行機の乗り方が変わり、チケットレスとなっていたのである。

とはいえ、自宅で印刷したQRコードを改札に通すだけ。昔みたいに、磁気券の半券をもらうことはなくなったのだ。

保安検査場を抜けたときには、すでにJAL305便の搭乗が始まっていた。今回は2人旅なので、後方の2人席を確保したのである。

席に着き、出発を待つ。すると、前の席には見るところ上のが息子よりも少し年下の女の子2人組が座っていた。

キャビンアテンダントによると、彼女らだけの旅行らしい。そのため、キャビンアテンダントが面倒を見るために何度か見回るのをわびていた。

8時15分、定刻に動き始めD滑走路へ。今回のフライ

トは、D滑走路からの離陸となった。

10年ぶりの飛行機である私にとって、D滑走路は初体験。いよいよ、離陸である。

上の息子は、初めての加速、初めての上昇におびえる様子はなかった。とりあえずは一安心である。

この日の東京は曇り空。従って、しばらくすると雲の中に突入する。

さらに高度を上げ雲の上へ出ると、左手に雲から突き出る富士山が見えてきた。まさに「♪頭を雲の上に出し～」である。

ただ、一面雲海で富士山以外の目標物がないため、どの辺を飛んでいるのかがよくわからない。それでも、名古屋付近で少しずつ雲が晴れて下界が見渡せるようになった。



機内では、フライトアテンダントが上の息子にプレゼント。飛行機のおもちゃ、折り紙、シールの選択肢があったが、上の息子は折り紙を選んだ。

また、ドリンクサービスでは、上の息子はコンソメスープを選択。フライトアテンダントが気を遣ってぬるめにしてくれたおかげで、上の息子は大満足のような様子だった。

JAL305便は、琵琶湖から岡山、さらに広島上空を飛行。その間、上の息子はゲーム機でひたすら遊んでいた。

彼にとって、飛行機は下界の景色を楽しむものではなく、安心してゲームをできる空間と思っているようである。せっかくの初めての飛行機を、ゲームで満喫しているのだ。

玄界灘上空へ出て、進路を左へ。いよいよ、福岡空港へ降り立つ。

そして着陸。誘導路に入ると、前方にノロノロ進むプロペラ機がいたおかげで一時的に止まってしまったものの、無事にスポットインした。

飛行機を降り、「[男同士の九州紀行](#)」(2003年10月掲載)以来10年ぶりの福岡の地を踏む。博多弁で「ようきんしゃったね」と書かれた歓迎の看板を見つけた。

ここから地下鉄と西鉄を乗り継いで、太宰府天満宮へと向かう。この続きは[こちら](#)からどうぞ。

[[トップページ](#)]



2013年4月12日掲載

親子麺類紀行／太宰府&筥崎宮編

今月は、「親子麺類紀行」と題してお送りしており、その2回目となる。今回は[こちら](#)からどうぞ。

福岡空港に到着した我々は、一路太宰府へ向かう。そう、太宰府天満宮へ行くのだ。

でも、その前に福岡市営地下鉄の1日乗車券を購入する。地下鉄でいろいろ巡る予定があるからである。

訪れたのは土曜日なので、1日乗車券は「エコちかきっぷ」となり、大人500円、小児250円。さらに、小児向けには春休み期間中「ちかまるきっぷ」と名を変え、100円でなおかつ某ファストフードのドリンクSサイズの無料券がついてくるのだ。

早速、お得な1日券を購入する。ただし、「ちかまるきっぷ」は共通利用が開始されたICカードでは買えず、現金のみでの取り扱いだった。

地下鉄空港線に乗り込み、西鉄との乗換駅である天神へ。天神から西鉄福岡へと歩き、西鉄に乗る。

太宰府天満宮の最寄り駅は太宰府だが、西鉄福岡からの直通は30分に1本で普通電車のみ。そのため、とりあえず急行花畑行きに乗る。

この急行は、途中の大橋で普通太宰府行きに接続するという。なので、大橋で太宰府行きに乗り換えた。

西鉄福岡から西鉄二日市までは天神大牟田線、そこから太宰府までは支線の太宰府線となる。西鉄二日市で、ちょうどスイッチバックのように進行方向が逆転するのだ。

太宰府に到着。駅前の参道を右に入り、太宰府天満宮に入る。

昼を回ってころ合いが良かったためか、参拝は大行列をなしていた。しかし、横へ広がるよう案内されると一気に半分以下の長さとなる。

我々も参拝し、来た道に戻る。すると、境内に猿回しがいたのだ。

ちょうど昼時なので、境内の池に面した店で昼食。私は天井を、上の息子はカツ丼を食した。

駅まで戻る途中、上の息子は土産物店に入る。ここで、なぜかくまモンのソフトキャンディを購入した。



時間があれば熊本まで足を伸ばしたかったものの、やはり時間的にきつい。福岡の隣県のキャラではあるが、まあよしとしよう。

なお、参道に人だかりができる店を発見。都会ならどこにでもあるシアトル発祥のコーヒーチェーンである。

ところが、その辺の店舗とは外見が大きく違う。寄せ木のようなデザインなのだ。

人だかりは、この店の写真を撮ろうとしていた人たちである。私も、その中に加わって撮影してしまったのは言うまでもない。

太宰府から西鉄に乗り西鉄福岡に戻る。今回の宿は、天神にある福岡での定宿だが、チェックインは15時からとなっているのだ。

西鉄福岡に着いたのはその30分前。まだ時間があるので、神社のはしごをすることにした。

向かった先は筥崎宮（はこぎきぐう）。天神から地下鉄に乗り、箱崎線の箱崎宮前（はこぎきみやまえ）で下車する。

筥崎宮を訪れるのは、「九州ラーメン紀行」（2001年3月掲載）以来実に12年ぶり。干支が一巡してしまったのだ。

筥崎宮の見物と言え、博多湾まで続く参道にある巨大な鳥居。この鳥居をバックに、上の息子の写真を撮る。

観光地化している太宰府天満宮と異なり、筥崎宮は観光客があまり多くない印象である。我々が訪れたときには、ちょうど結婚式が行われようとしているところだった。

筥崎宮には、勝負の神様がまつられている。本殿に掲げられた「敵國降伏」にはインパクトがあるのだ。



時刻は15時、再び地下鉄で天神に向かう。以後は[こちら](#)をご覧ください。

[\[トップページ\]](#)



2013年4月18日掲載

親子麺類紀行／長浜編

上の息子との「親子麺類紀行」をお送りしている今月の「ふくちゃんの“つれづれWEB”」だが、今回は3回目。[1回目](#)、[2回目](#)はそれぞれをご覧ください。

筥崎宮をあとにし、地下鉄で天神へ。天神の「定宿」へチェックインするのだ。

このホテルは前金制なので、チェックインのときに宿泊料金を支払う。その際、「ぐりーんパス」をもらった。

今回のプランは、福岡市中心部の西鉄バスが1日乗り放題になる「ぐりーんパス」つき。手元には地下鉄の1日乗車券もあるので、福岡市内の観光地への移動はほぼ賄うことができる。

ところが、大人1人子供1人での宿泊にもかかわらず、「ぐりーんパス」は大人2枚を渡される。まあ、大人が子供券を使うのはダメだが、子供が大人券を使う分には問題ないはずである。

「ぐりーんパス」とともに、赤い箱ももらう。チョコレート菓子を、1人1個ずつ用意されたのだ。

部屋に入り、しばし休憩したのち外出。宿は天神と薬院の間なので、薬院から地下鉄七隈線に乗り天神南へ移動する。

以前福岡を訪れた10年前には存在しなかった七隈線に、一度乗ってみたかったのだ。七隈線は、現在日本に6路線あるリニア地下鉄の1つである。

薬院から2駅先の終点である天神南で降り、天神の西鉄バス案内所へ。ここで、バスの路線図をもらう。

地下鉄と違って、バス路線は地図に載っていない。そして、行き先がよそ者には見慣れない地名なので、目的地に行くのかどうか理解しがたいのである。

そこで、路線図の登場と相成るわけだ。ただ、バスの行き先番号（系統番号）が途中から変わる路線もあるので、路線図があったとしても難易度が高い。

天神から、バスで福岡タワーへ。ここは「ぐりーんパス」を提示すると、入場料の割引が受けられる。

中に入り、展望台に到着。福岡市内が一望できる展望台に、このようなものがあった。

「恋人の聖地」というデートスポットである。調べてみると、全国各地にあるようだ。

カメラを置いて撮影できるように、スタンドが置かれていた。恋人同士でないにもかかわらず、上の息子と親子で記念撮影する。



福岡タワーから、博多埠頭にある温泉へ向かう。直接博多埠頭へ行くバスはないので、一度天神に出なければならない。

ただ、福岡タワー南口のバス停からは30分に1本。1つ先のバス停には次々とバスが止まるのが見えたので、そこまで移動する。

博物館北口からバスに乗り、天神北で乗り換える。天神北にたまたま着いたバスは博多埠頭には行かないものの、路線図の行き先番号によると近くまでは行くようなので乗車してみた。

博多埠頭に一番近い築港本町で下車し、5本ほど歩くと博多埠頭の温泉に到着。ここも、「ぐりーんパス」の割引対象施設なのだ。

その割引の恩恵を受け、入浴。ところが、当初の予定より1時間近く押しているの、あまり長居できない。

早々に温泉を切り上げ、長浜の屋台へ向かうためにバスに乗る。ここでも、一度天神で乗り換えが発生する。

天神北で降り、西方面に行くバス停を探と、直近は天神郵便局前の模様。ここでバスを待つと、大濠公園行きがやってきたので早速乗車する。

平和台通りで下車。すぐそばの交差点は、10年前の2003年10月に掲載した「[男闘士の九州紀行](#)」では「平和台」と、かつての「平和台球場前」から「球場前」をシールでふさいでいた。

でも、それから10年がたった今、バス停と同じ「平和台通り」と改名していたのだ。もはや、平和台球場といってもピンと来ない地元の人もあるのだろう。

ほどなく、夢焦がれていた長浜に到着。私にとっては10年ぶり、上の息子にとっては初めての長浜ラーメンである。

私も上の息子も、ラーメンの堅さは普通で注文。ほかにも、串焼きやビール、餃子も頼んだ。

ラーメンが目の前に現れ、2人とも食す。うまい！ 実にうまいのだ!!

私は1杯だけで飲みの態勢に入るが、上の息子は替え玉に挑戦。今回の麺の堅さは、バリカタを選んだ。

この店での麺の硬さは、「ハリガネ」「バリカタ」「硬め」「普通」の4種類。上の息子は、さすがに全部を試すわけにはいかなかったようなので、残り2つは次回への課題としたようだ。

一方、私は生中のあとに梅酒のソーダ割りを3杯。上の

息子に「飲み過ぎないで」と注意されるも、慣れない土地でしかも子連れで泥酔するわけにはいかないのほどほどにする。

久々に長浜の屋台を満喫。上の息子も、満足したようだ。

屋台から一番近い港一丁目のバス停からバスに乗り、天神の宿に向かう。22時に宿に着き、就寝する。

この日は5時起きだったが、翌日は6時起きである。以下、[こちら](#)へと続く。

[[トップページ](#)]



2013年4月24日掲載

親子麺類紀行／こんぴらさん編

2泊3日の「親子麺類紀行」は、今回で4回目を迎えた。

[1回目](#)、[2回目](#)、[3回目](#)はそれぞれからどうぞ。

2日目の朝、6時に起床しホテルで朝食。バイキング形式なのをいいことに、下の息子はパンとご飯の両方を食べた。

7時にチェックアウトした際にも、赤いパッケージのチョコレート菓子を2個もらう。チェックイン時にももらったので、都合4個となる。

天神から地下鉄に乗車する前に、上の息子にはやることがあった。「ちかまるきっぷ」についてきたSサイズのドリンクを引き替えに、ファストフード店に立ち寄る。

地下鉄に乗り、博多で下車。駅の売店で、私は明太のり佃煮を、上の息子はくまモンのお守りを購入する。

博多からは、8時19分発の「みずほ600号」新大阪行きに乗るのだ。「みずほ」といえば、新幹線ではなくどうしてもブルートレインを連想してしまうのは私だけではない。

「みずほ」は、「さくら」とともに山陽新幹線と九州新幹線を直通するが、「さくら」が「ひかり」相当なのに対し、「みずほ」が「のぞみ」に相当する。ただ、車両は共通なのだ。

今回乗車したのは、JR九州のN700系8000番代。JR西日本のN700系7000番代とともに、木目調&暖色系の照明が、これまでの新幹線と異なりゴージャス感を演出しているように思える。

車内販売で、私はバニラ、上の息子はアップルのアイスクリームを購入。ところが、2個ともカッチカチな状態なので、下車駅までアイスが溶けそうにない。

そうこうしているうちに、9時57分に岡山に到着。ここで、瀬戸大橋線「マリンライナー」に乗り換えて高松へ向かう。

10時23分発の「マリンライナー21号」の車内で、溶けなかったアイスがようやく食べられるくらいの固さになった。買ってから、すでに40分くらいは経過していたのだ。

「[讃岐紀行](#)」(2010年1月掲載)以来、3年半ぶりの瀬戸大橋を渡り、四国に上陸！ 四国を訪れたのには、うどんだけではない理由がある。

それは、前回の四国旅行の際に現在の上の息子が発熱し、「こんぴらさん」こと金刀比羅宮に行けなかったのだ。このリベンジを果たす目的もある。

今回の旅行では、雨の懸念があった。しかし、上の息子が作ったてるてる坊主のおかげで、薄曇りで済みそうである。

高松に到着し、高松築港からことでんで琴電琴平へ向かうために、1日乗車券を購入する。1日乗車券は、高松築港—琴電琴平を単純に往復するよりも安いのだ。

12時30分発の琴電琴平行きに乗る。この列車は、この日は「ことちゃんひやく号」での運転だった。

ことでんのキャラクターである、イルカのことちゃんとかことみちゃんがラッピングされている。さらに、車内には網棚からことちゃんのストラップがぶら下がっているだけではなく、2体の巨大ぬいぐるみが座席に鎮座しているのだ。

ラッピングでは、ことちゃんが「ぞぞー」っとうどんを、ことみちゃんが「もっ」っとケーキを食べている。この擬音、上の息子はたいそう気に入ったようで、「ぞぞー」のメモ帳を購入していた。



高松築港から約1時間で琴電琴平に到着。こんぴらさんへと歩を進める。

実は、15年以上前にもこんぴらさんに訪れたことがあった。ただ、このときは現地ナビの車で来たので、駅からの道のりは初めてである。

こんぴらさんといえば、長い長い階段が有名。御本宮までなら785段、奥社までは1368段ある。

ただ、さすがに奥社までは無理なので、御本宮までにすることにした。それでも、筋肉痛は必至である。

途中、時間も時間なので昼食。やはりうどん、しかもざるうどんを2人でいただく。

満腹となったところで、再び階段を登る。さすがに上の息子はバテ気味で、「まだー？」を連発していた。

15分ほどで、ようやく御本宮に到着。785段を登ってきたので、讃岐平野



が一望できる。

ただし、この日はガスっていて讃岐富士もかすんでいた。天気がよければ、瀬戸大橋まで見渡せるはずである。

ここで、上の息子はお守りを購入。黄色のお守り以外にも、弟用のお守りも買ったのだ。

弟へのおみやげは、まるで子供が描いたような顔のイラストが入っている。その名を「笑顔元気くん」といい、宮司が描いたものらしい。

いよいよ下山。下りは上りほど時間がかからないものの、いかんせん足に来る。

そんな疲れた足を癒してくれるのが、何ととっても温泉だ。こんぴらさんの麓には、こんぴら温泉があるので、入浴することにした。

その模様は[こちら](#)をご覧ください。

[\[トップページ\]](#)



2013年4月30日掲載

親子麺類紀行／ことでん&サンライズ編

上の息子との2人旅「親子麺類紀行」も、いよいよ最終回！ 前回までの分は、[1回目](#)、[2回目](#)、[3回目](#)、[4回目](#)それぞれをご覧ください。

こんぴらさんをお参りし、「[讃岐紀行](#)」（2010年1月掲載）でのリベンジを果たした我々は、こんぴらさんの麓にあるこんぴら温泉の日帰り風呂に入る。

ここは旅館が日帰りに開放しているものだが、営業時間が16時まで。福岡の宿の出発が7時だったのは、温泉の時間に間に合わせるためだったのである。

風呂にはサウナがあり、上の息子が入りたがった。いつもじいじと行くスーパー銭湯でもサウナがあるらしいが、入れさせてもらえないらしい。

注意事項にも「子供は入るな」と書いておらず、中に誰もいないので、一緒に入ってみた。彼は必死に我慢したものの、1分でてきたのは言うまでもない。

温泉で旅の疲れを癒し、琴電琴平からことでんに乗る。ことでんの沿線風景は、何ととっても香川県らしくため池である。

その中でも、岡本駅前にあるため池は変わっていて、ゴルフの打ちっ放しが設けられているのだ。普通は芝に向かって打つのだが、ここはため池に向かって打つことになるので、自動的にすべて池ポチャになってしまうのである。

さてさて、一応予定していたスケジュールはほぼ終わり、高松から乗り込む「サンライズ瀬戸」の出発まではまだまだ時間があった。そこで、ことでんの車庫がある仏生山（ぶっしょうざん）で下車してみる。

車庫の片隅にいたのは、レトロ電車の300号。月に1度ほど定期的に運転されているが、前の週に運転されたばかりでこの日はお休みだった。



仏生山をあとにし、ことでんのターミナルである瓦町(か

わらまち) へ。ここで、再び「ことちゃんひやく号」に乗車した。

車内巡回中の車掌から、上の息子にシール状の記念乗車証を渡される。そして、親である私も渡されたのだ。

瓦町では、今まで乗ってきた琴平線から志度(しど)線に乗り換え、志度線の車庫がある今橋(いまばし)で降りる。琴平線には「ことちゃんひやく号」がいるが、志度線には那須与一をモチーフにしたラッピングの「ことちゃん源平号」がおり、写真に納めた。



ころ合いがよくなったので瓦町まで戻り、ここから徒歩5分ほど歩いたところにあるうどん屋で夕食。前回の四国旅行でも訪れた店だ。

注文したのは、前と同じ釜玉。こんぴらさんでのざるうどんもそうだが、やはり本場の讃岐うどんは美味である。

うどんを堪能し、瓦町からことでんで高松築港に向かう。瓦町で電車を待っているとき、上の息子が突然泣き出してしまったのだ。

どうも、疲れと眠気、そしてゲーム機のバッテリーが切れてしまったことが原因の様。自宅で待っているママに電話すると、元気を取り戻した。

高松築港から、徒歩で高松駅へ。駅の売店で、おみやげをしこたま買い込む。

うどんはもちろんのこと、かまど型のお菓子は鉄板だろう。「サンライズ瀬戸」の車内で、一杯引っかけ用の讃岐ビールとおつまみも欠かせない。

一方、上の息子は愛媛県今治市のバリィさんのクッキーや、うどん県クリアファイルを購入。うどん県はいいとして、バリィさんは隣県だから……まあいいか。

それでもまだ出発まで1時間もあるので、駅の待合所で「サンライズ瀬戸」の入線を待つ。

21時の少し前、高松9番乗り場に「サンライズ瀬戸」がやってきたので、早速乗り込んだ。今回は、前回と同様サンライズツインにしようと思ったのだが、空きがなく2

段ベッドのシングルツインとなったのだ。

21時26分、高松を出発。20分ほどで、次の停車駅坂出に到着。外を見ると、こちらに手を振る中年夫婦がいたため、せっかくなので手を振り返しておいた。

そのことを上の息子に伝えようとしたら、旅の疲れですでに熟睡。今回の旅では、連日早起きしていたので無理もない。



岡山で、出雲市から来る「サンライズ出雲」を併結。姫路を過ぎて横になるものの、京都付近までの記憶があった。

目を覚ましたのは静岡。起きたついでに、静岡在住の友人に「ちょっと通りますよ～」メールを送って二度寝しようとしたら、すっかり目がさえてしまった。

そのままJR東日本管内に入り、藤沢を過ぎた6時30分に携帯電話の目覚まし鳴る。上の息子も起きてきた。

朝のラッシュに入りかけている時間がゆえ、並走する電車はそれなりにギッシリ。その中に、こちらに手を振る乗客がいた。

上の息子も気づいたらしく、手を振り返す。サンライズは、通勤時間でのオアシス的な存在なのかもしれない。

7時08分、定刻で東京着。800km、10時間近くの道のりなのにもかかわらず、遅れなしで到着するのは日本の鉄道ならではだろう。

そして、普段なら出勤する時間に自宅に着いた。これで、「親子麺類紀行」は完結したのである。

[\[トップページ\]](#)

次回は、家族4人そろって旅行したいものだ……。